

「戦争孤児たちの戦後史と福祉文化を考える

－沖繩の歴史と現実を踏まえて－

日本福祉文化学会は 2017 年 2 月に福祉現場セミナー2017in おきなわ「戦争と福祉 ～沖繩を考える～平和の文化を育てる」を開催しました。日本における戦争、平和、福祉文化を考える上で、国内で唯一の陸戦が繰り広げられ、今も尚、米軍基地の残る沖繩について考えていくことは重要です。今回は、沖繩でもシンポジストとしてお話をいただいた立教大学名誉教授 浅井春夫先生より、「戦争孤児たちの戦後史と福祉文化を考える」をテーマにご講演いただき、子どもたちにとっての福祉文化を考えていきたいと思えます。

テーマ：「戦争孤児たちの戦後史と福祉文化を考える －沖繩の歴史と現実を踏まえて－」

日 時：2017 年 11 月 25 日（土）13：00～16：00（受付は 12:30 より開始）

場 所：ECC コンピュータ専門学校 1 号館 3 階 <http://comp.ecc.ac.jp/access/>

講 師：浅井 春夫先生（立教大学名誉教授）

資料代：500 円 当日受付にて納入ください。なお、おつりのないようご準備ください。

申込方法：下部の参加申込票に必要事項をご記入いただき、FAX で送信いただくか、E-mail に、必要事項を記載の上、送信ください。

参加申込票

代表者氏名		連絡先電話番号もしくは E-mail
代表者以外の参加者（7 名以上の場合、様式は問いませんので、別紙にご記入ください。）		
1.		4.
2.		5.
3.		6.

(FAX 送信先) 大阪市ボランティア・市民活動センター (担当：脇坂)

FAX： 06-6765-5618 TEL：06-6765-4041

(E-mail 送信先) 日本福祉文化学会関西ブロックメールアドレス kansaifukushibunka@gmail.com

(送信時は@を半角に変更してください。)

【講師プロフィール】（2017年7月現在）

1951年8月、京都府南丹市生まれ。日本福祉大学大学院（社会福祉学専攻）を修了。

東京の児童養護施設で12年間、児童指導員として勤務する。

元・立教大学コミュニティ福祉学部教員（2017年3月定年退職）、立教大学名誉教授

専門分野は、児童福祉論、セクソロジー（人性学）、戦争孤児の戦後史研究、とくに社会福祉政策論、児童福祉実践論、性教育、子ども虐待、子どもの貧困を重点課題としている。

<著書>

『子どもを大切にする国・しない国』（新日本出版社、2006年）／『脱「子どもの貧困」への処方箋』（新日本出版社、2010年）／『沖縄戦と孤児院』（吉川弘文館、2016年）／『戦争をする国・しない国』（新日本出版社、2016年）他多数

【講師の先生より】

沖縄はまさに日本の問題であり、私たち国民の問題であるのですが、なぜか私たちの問題とは捉えられてきませんでした。いわゆる本土と沖縄の意識の格差が生まれたのかを考えることは、福祉文化の歴史研究の課題としても重要ではないでしょうか。

アジア・太平洋戦争では、日本本土を守るための「捨て石」とされたのが沖縄であり、その現実が現在の基地オキナワにまで引き続いており、戦後も沖縄は戦闘と米軍占領が地続きの状態となっています。

わが国の歴代政権が沖縄に犠牲を押し付けてきた政治の問題が根底にありますが、私たちがなぜ沖縄を「私たちの問題」として考え、行動してこなかったかを考える必要があります。

沖縄を知る意味は、第1に、マイノリティと困難を抱える人々と地域の事実・現実・真実を見る目を鍛えることになるという点です。第2は、沖縄の現実を通して、日本国憲法を真摯に考える基本問題となります。最も困難な地域から憲法を考え、憲法の存在意義を考えてみたいものです。第3として、沖縄には困難への立ち向かい方と希望を見出すことができるという点です。その点で日本の未来を考える応用問題として沖縄はあるといえるのではないのでしょうか。

さらに沖縄との真摯な連帯をどうはぐんでいくのかを、福祉文化の問題としても考えてみたいものです。

多くの参加者とともに、沖縄を考え、沖縄を知り、沖縄との連帯のあり方を考えてみたいと願っています。